



# 西浮通信

令和6年1月9日

NO. 398

東京都北区立西浮間小学校

校長 小島 みつる



## 謹んで初春のお慶びを申し上げます

校長 小島 みつる



今年の干支（えと）の「甲辰（きのえ たつ）」は、あまねく光に照らされ、急速な成長と変化が起きる年になることを指し示しているそうです。これまでの努力が認められ更なる成長を遂げる年になるかもしれませんね。

昨年は、行事や公開等ほぼコロナ前の実施状況に戻すことができました。子供たちの頑張る姿をともに見守り、応援していただき、誠にありがとうございました。新年を迎え教職員一同、心新たに本校の教育活動充実に向けて力を合わせ精進してまいります。本年もどうぞご理解、ご協力をお願いいたします。

さて、新年にあたり、子供たちの健やかな成長に向け、学校でもご家庭でも大切にしていきたい3つのことを確認したいと思います。

一つ目は、「認め励ます」ということです。叱るだけでは人は絶対に育ちません。しかし、むやみやたらに褒めるだけでも育ちません。子供が頑張っているとき、頑張ろうとしているとき、価値ある褒めができるときを見逃さずに褒めることが大切です。叱り言葉、褒め言葉だけで終わらせずに、励ます言葉を添える…叱咤激励のバランスを取りながら、認めて励ます絶妙さを基本としたいものです。

二つ目は、「善しは善し、悪しは悪し」ということです。人間の社会には、理由は後回しにして善いことは善く、悪いことは悪いというルール、マナー、姿、かたちがあります。このことを徹底して教え守らせることは、私たち大人のつとめです。子供の頃に身に付いた（心に染み込んだ）善悪の意識は、一生その人の大基（おおもと）になるでしょう。そのために子供を取り巻く全ての大人が、一致した考えで教えてあげることが基本です。

三つ目は、「人とよく遊ぶ」ということです。子供は子供たち同士で群れて遊ぶ中で、やって良いことと悪いこと、様々なルールやマナー、相手の思いを推し量る想像力や思いやり、自分とは違う考え方や感じ方があることなどを知り、身に付けていきます。大人になってどのような場所に住もうと「社会」と関わって生きていきます。人は人の中で人と関わって生きていくのです。大人社会で起こるであろうトラブルは、子供たちの今現在の「社会」である学校の中でも同様に起こります。そのトラブルにどう対応するか、どう乗り越えていくかを知り、力を付けていく…トラブルそのものが教材とも言えます。人と群れて遊ぶことは、大人になって「社会」と関わって生きていくことと同じです。ですから、人と群れて遊ぶことが子供にとって重要な学びの場であるということ、再度確認しなくてはなりません。



1月は1年のスタートですが、学校では1年間・年度の締めくくりの時期のスタートにもなります。長期にわたってインフルエンザウイルスやアデノウイルス等感染症が猛威を振るっていますが、まずは、健康第一。ご家庭でも、手洗いやうがい、早起き早寝朝ご飯等の規則正しい生活をして、子供たちが締めくくりの時期を元気で頑張れるようにご配慮くださいますよう、よろしくお願いいたします。

このたびの令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地域の日も早い復興をお祈りいたします。